

資料 7（別添） 令和 3 年度国民健康保険の保健事業について

事業名	評価結果・課題等	見直し内容	令和3年度の取組		
			方法	内容	実施予定時期等
特定健診受診率 向上対策	健診受診率の低下はないが目立っ た上昇もない。	引き続き、受診率向上に向けた取り組みを 継続するとともに、まだら受診者への勧奨 やナッジ理論等を利用した勧奨などの新た な取り組みも行う。	【継続】受診勧奨(40 歳)	40歳で初めて特定健診の対象となる者へ、健診に関するアンケート を兼ねた受診勧奨のはがきを送付。	受診券送付の 1 週間前程度 5月末、8月末、11 月末
			【継続】様々な機会を利用した受診 勧奨	受診券同封物の他、かかりつけ医、薬局等に受診 勧奨チラシを配架。	通年実施
			【新】AIによる受診勧奨 (委託事業)	AI分析・ナッジ理論を活用し、過去3年間の受診歴や健診結果等か ら、「頑張り屋さん」「心配性さん」「面倒くさがり屋さん」等のタイプ ごとに受診につながるような文面のリコールはがきを送付。	・9月、1月に実施(予定) ・各 10,000 通
			【新】受診期間の柔軟な対応	受診推奨期間を過ぎても、健診実施期間内(令和3年6月～令和2 年2月末)であれば、延長手続きなしに、受診可能。また、受診推奨 期間前に受診を希望される場合は、申請により受診券を発行。 (受診推奨期間) 4～7月生:令和3年6～8月 8～11 月生:令和3年9～11 月 12～3月生:令和3年 12 月～4年2月	(健診実施機関) 令和3年6月～令和4年2月末
特定保健指導 利用率向上対策	利用率が向上しないことが課題で ある。	引き続き、利用率向上に向けた取り組みを 継続するとともに、医師との連携にも取り 組んでいく。	【継続】未利用者勧奨	特定健康診査の結果、特定保健指導の対象となった者に対し、結果 説明時に健診担当医から生活習慣改善に向けた、各種プログラム参 加を促す。派遣保健師による電話での利用勧奨	令和3年6月～令和4年5月
			【継続】特定保健指導(積極的支援) プログラムの充実	積極的支援の対象者が、生活習慣の改善に継続して取り組めるよ う、自らの生活にとり入れやすい各種プログラムを設定。コロナ禍で も参加しやすいよう、オンライン対応 2 コースを設定。 Aコース:おなかすっきり相談室 Bコース:スポーツクラブプログラム Cコース:はかるだけダイエット(オンライン) Dコース:めざせ！美BODY☆(オンライン)	保健指導期間:令和3年6月～令和4年12月
			【新】特定保健指導従事者研修の開 催(委託事業)	鎌倉市特定保健指導(動機付け支援)の委託先である鎌倉市医師会 と協力し、対象者のモチベーションを維持し、効果的な生活改善を図 ることを目的とした、動機付け支援従事者スキルアップ研修を開催。	令和3年6月 30 日(水) オンライン研修会 テーマ:「対象者の心を動かす効果的な 保健指導」
生活習慣病 重症化予防 (重症化予防)	保健指導利用者数が少ないことが 課題である。	対象者基準の見直し等行いながら、重症化 予防につながる取り組みを継続していく。	【継続】糖尿病重症化予防 事業(委託事業)	糖尿病の治療中の者に対し、重症化予防のための保健指導を実施。 健診結果等から階層化したプログラムの利用を勧奨。主治医と連携 した重症化予防を目指す。 Aコース:早期予防型(保健指導1回) Bコース:機器活用型(血糖モニタリング機器の活用+保健指導1回) Cコース:腎症予防型(保健指導3回) 健診結果からプログラム利用勧奨域にある対象者への電話勧奨を 保健師・栄養士により実施。あわせて対象者のリストを健診実施医 療機関に送付。	保健指導(委託):通年 利用勧奨:令和3年8月～令和4年7月(予定)
生活習慣病 重症化予防 (受診勧奨)	対象者の選定方法に課題があり、 受診勧奨に至らない。	医師との連携や対象者の選定方法を見直 しながら、受診につながる取り組みを継続 していく。	【継続】保健師、栄養士に よる受診勧奨	特定健康診査の結果から、HbA1c7. 0%以上で、治療を受けてい ない可能性の高い者(治療中断を含む)への電話勧奨を実施。あわ せて対象者のリストを健診実施医療機関に送付。	令和3年8月～令和4年7月(予定)
重複・多受診者 対策	毎年度の取り組みで、確実に対象 者の減薬につなげている。	引き続き、対象者を効果的に選定し、減薬 へつなげていく取り組みを行う。通知や電 話の面接で減薬につながる効果を確認で きたことから、評価対象は面談数ではなく 面接数も評価の対象とする。	【継続】適正利用に関する通知	2つ以上の医療機関から3か月続けて同一薬剤(向精神薬)の処方 を受けている者に対し、通知書の送付・アンケート実施・面接等によ り、適正受診を促す。	年 1 回 令和4年1月(予定)
後発医薬品 使用促進	目標値には達していないが、徐々に 使用率は増加している。	引き続き、使用率増加のための取り組みを 行う。切替率の低い年代・性別にターゲット を絞って効果的な切替勧奨を行う。	【継続】差額通知の発送	ジェネリック(後発)医薬品に切り替えることで、いくら費用が減額さ れるのか通知することによって、利用促進を図る。	年2回 令和3年9月、令和4年3月(予定)
			【新】特定健診受診勧奨チラシと併 せた周知	(1面)特定健診の受診勧奨、(2面)後発医薬品の利用促進を印刷し チラシを配布	通年実施